



大阪は南河内のぶどう畑を舞台に、高校生たちの
甘酸っぱい青春を瑞々しいタッチで描いた青春ストーリー。

映画『あしたになれば。』は、思春期特有の恋や友情、家族との問題に悩む6人の高校生のひと夏の経験を描いた、笑いあり涙ありの青春物語です。物語の舞台となったのは、大阪市内から近鉄電車でわずか20分ほどの南河内地域。古墳や寺社仏閣で知られ、ブドウ畑やイチジク畑が広がる羽曳野市・藤井寺市・太子町の2市1町が「シネマプロジェクト」を立ち上げ、全面的な協力のもと、撮影が行われました。

シネマプロジェクト概要

羽曳野市・藤井寺市・太子町の住民が参加し、地域を舞台にした映画製作への支援等を通じて、各市町が有する魅力ある地域資源を広く内外に発信することにより、地域ブランドの向上、地域間の交流、地域活性化及び観光の振興を図ることを目的として立ち上げたプロジェクトです。

Story

大阪府南東部に位置する南河内市。
ぶどう畑に囲まれた自然豊かな郊外を舞台に、
高校2年生の大介(小関裕太)は、夏の甲子園予選に負けたことが
原因で野球部から足が遠のいてしまう。
夏休み、暇を持て余す大介だったが、ひょんなことから
友人の元(葉山奨之)や、健二(小川光樹)、
昭吾(山形 匠)、そして隣の女子高に通う美希(黒島結菜)と
玉子(富山えり子)の6名で、地元のおこしのための
グルメコンテストに出場することになる。当初は美少女の美希が
目当てで参加していた大介たちだったが、
徐々に料理の奥深さに気づきはじめる。同時に、
大介と元が抱く美希への思いも強くなっていく。
そんな中、美希が突如練習に来なくなる。
いったい美希が抱える悩みとは…。
果たして彼らは無事にコンテストを迎えることができるのか。
そして大介、美希、元の三角関係の行方は…。



松井大介 (17歳)

ぶどう農家の長男。甲子園予選に負け、もやもやした気持ちを発散できずにいる。

小関裕太



佐々木美希 (17歳)

飛鳥女学院に通う高校2年生。優しい心の持ち主だが、複雑な家庭事情を抱えている。

黒島結菜



安田 元 (17歳)

大介の友人で明るく、友達思い。密かに美希へ思いを寄せている。

葉山奨之



大野健二 (17歳)

南河内男子高校2年。実家はお好み焼き屋を営んでいる。

小川光樹

見村昭吾 (17歳)

南河内男子高校2年。ITのコンテンツビジネスにハマっているオタク。

山形 匠



大島玉子 (17歳)

美希とともに飛鳥女学院に通う。男勝りな性格の持ち主だが、料理の腕はピカイチ。

富山えり子



佐々木香織 (44歳)

美希の母。夫との離婚後、ふるさとである南河内市に戻り、美希と2人で暮らしている。

清水美沙



松井幸雄 (48歳)

大介の父で、ぶどう農家として働いている。男気溢れる性格で一家の大黒柱。

赤井英和



監督: 三原光尋

1964年、京都府出身。大阪芸術大学芸術学部にて在学中から映像制作をはじめ、地元関西を舞台に数々の作品を制作。1994年、大阪府が文化の発展に寄与した者に与える「咲くやこの花賞」受賞。2001年に、南河内地域を舞台にした映画『あしたはきっと...』で、吹石一恵の名を一躍広めた。その他の主な代表作は上海国際映画祭で最優秀作品賞と男優賞(藤竜也)を受賞した「村の写真集」(04)、中谷美紀、藤竜也を起用し、料理を通して人と人との絆の大切さを語った「しあわせのかおり」(08)などがある。

